

## 「令和元年度『学びのスタンダード』推進事業」の推進地域の取組

パイロット校名	会津若松市立第一中学校、会津若松市立城北小学校
推進協力校名	会津若松市立行仁小学校

### 子どもたちの生きる力の育成のために

若松第一中学校区の児童・生徒一人一人の生きてはたらく「確かな学力」の育成のため、城北小学校と行仁小学校、若松第一中学校で連携・協力して「学びのスタンダード」推進事業に取り組んでまいりました。共通実践事項として、「学び合い、伝え合い」をテーマとして、子どもたちに「思考力・判断力・表現力」の育成を目指してまいりました。その結果をご報告いたします。

#### 1 推進地域における「授業スタンダード」の活用について

- (1) 若松第一中学校区においては、「授業スタンダード」との関連を明らかにして授業づくりを行うとともに、共通実践事項を定め同じ方向性をもって取り組むようにした。
- (2) 「家庭学習スタンダード」の中核をなす「自己マネジメント力」を育むことを共通の目標として、「R-PDCAサイクル」を生かしたテスト前の計画表づくり（中学校）、家庭学習アンケートの実施による振り返り（小学校）などに取り組んだ。

#### 2 パイロット校の取組内容

- (1) 小学校（パイロット校Ⅱ）（右写真）

- ① 子どもの言葉を大切にし、伝え合う力を高めるための授業づくり

ア ねらい達成のために必要な言語スキル（言語活動・引き出したい言葉）を明確にし、学習過程に明示

イ 子どもにとって必要感のある（目的を明らかにした）ペア・グループでの話し合い、双方向の伝え合いと学びのコーディネート（どの段階で、何のために、どのような話し合いをするか）

ウ 相手意識を重視した日常指導（あたたかい学級経営）

エ 「授業スタンダード」チェックシートによる振り返り



【必要感のある話し合い・伝え合い】

- ② 家庭学習アンケートの実施・活用

ア 家庭学習アンケートによる家庭学習力の振り返りを実施

イ レーダーチャートの作成による自分の家庭学習力の把握と分析（右参照）



【レーダーチャートによる自己分析】

(2) 中学校（パイロット校Ⅰ）の取組

① 現職教育の充実

ア 「授業スタンダード」の「ペアやグループでの話し合い」と「まとめ・振り返り」を重点化した授業を実践した。（右写真参照）

イ リーフレットにある「子どもの姿」が見られる指導を工夫した。



社会の授業  
「ペア」で話し合っている  
場面（中学校）

② 「タテ持ち」

授業の質的改善のために教科部会を中心に授業の進度や授業内容の確認、定期テスト作成の話し合い、公開授業の指導案検討、互見授業などを実施した。

③ チェックシートの実施

教員全員が「学びのスタンダード」のチェックシートで自己評価し、振り返りと意識改革を図った。

④ 振り返りの実施

授業の終わりに本時の学習内容を振り返った。自己評価や摘要問題を実施した。また、帰りの学活には、本日の授業全ての振り返りを行った。

### 3 推進協力校の取組内容

(1) パイロット校との連携（右写真）

① パイロット校との協力による授業実践

ア 年間3回・・・第一中学校、城北小学校の教員も参加しての授業研究会

イ パイロット校の授業参観

② 三校共通実践事項「話し方・聴き方」レベル1～3の校内での取組



フリートークによる学び合いをしている場面（小学校）

(2) 協力校としての取組

① 授業スタンダードを生かした授業実践

ア 同一単元における学年での授業検証

イ 学年・ブロックの機能を生かした授業案検討

ウ ペア・フリートーク等活動形態を工夫したコーディネートによる授業力向上

② 「授業スタンダード」チェックシートの自校化による授業の充実・改善

### 4 3年間の取り組みから見えた成果と課題

(1) 成果について

① 小学校（パイロット校Ⅱ）

・ 目的を明確にした、子どもにとって必要感のあるペアやグループでの伝え合い、話し合い、双方向的な教え合いを大切に指導してきたことにより、考えが広まったり、深まったりし、質の高い学びにつながった。

・ 子どもの言葉に耳を傾けて取り上げ（価値づけ）たことで、子どもの思いを大事にした学びとなった。また、問い返しの発問を生かしたことで、理由を明らかにして学ぶことができたり、別な子に再生をさせたりすることで、大事なことを共有しながら学ばせることができた。

・ 教員が、課題意識を持って指導にあたるようになってきた。

- ② 中学校（パイロット校Ⅰ）
- ・ 「タテ持ち」については、教員同士が授業の進捗について確認できたり、定期テストの問題を検討して改良したりすることができた。
  - ・ 「授業スタンダード」については、リーフレットに記載している「ペアやグループでの話し合い」や「まとめ・振り返り」を重点項目とした現職教育を推進し、思考力・表現力の育成ができるようになった。アンケート調査の結果、教員の意識が高まった。また、生徒の学習意欲がさらに高まる結果だった。
  - ・ 互見授業が充実され、校長、教頭、研修主任、推進教師、教科の教員、教科外の教員が参加し、授業の参観と研究協議が行われた。他教科の授業を参観した教員が自分の授業の指導にも生かすこととなった。

③ 小・中学校共通

- ・ 中学校の定期テストの学習期間に合わせて小・中共通の「メディアコントロール」のお願いを家庭に配付した。若松第一中学校区で共通の「メディアコントロール」の取り組みができ、家庭環境を整えることができた。
- ・ 小・中学校の代表者が秋田県大仙市大曲への研修視察を行い、各校の研究実践の参考にした。

(2) 課題について

① 小学校（パイロット校Ⅱ）

- ・ どのような「見方・考え方」を働かせて学んでいくのかをしっかりと把握するとともに、子どもの言葉に価値を見出し、目標達成のために話し合いをコーディネートすることができるようにする。
- ・ 授業スタンダードの自校化（自分化）により、さらに課題意識をもって指導にあたる。

② 中学校（パイロット校Ⅰ）

- ・ 「タテ持ち」のさらなる有効活用を検討していく。
- ・ 「授業スタンダード」について、「授業スタンダード」のリーフレットをさらに熟考し、教員自身が自分のものとし、十分に使いこなせるようにしていきたい。「小中連携の具体的共通実践の充実」について、9年間を見通した継続的な「話し方・聴き方」の指導を継続していく。
- ・ 中学校区での共通事項についての確認や情報交換をする機会が少なかったので、今後も継続して各校の取り組みや成果と課題を話し合う場をもつようにしていきたい。